

Once upon a time, there was a wealthy merchant living in a village.

The merchant had a beautiful daughter named Belle.

One day, the merchant was going out to visit a somewhat far town for a big business deal.

"Hey Belle, what kind of souvenir should I get for you?"

"I don't need anything."

"Come on, don't be like that. Hey, just tell me what you want."

"Well then... I want a rose. Please buy me a single rose."

Belle asked the merchant with a gentle smile.





And the merchant made a big mistake in the deal and ended up losing all the money he prepared for it.

The merchant didn't even have enough money to get a carriage home, and so he was miserably walking home, with a long way to go before he gets back.

Eventually, the merchant lost his way in a deep forest.

"This is strange. I'm sure I have walked this path already..."

Having succumbed to fatigue and hunger, the merchant sat down on a tree stump there.

"Sigh...This might be the end of me. I'm sorry Belle..."

But then...





むかし むかし、とある むらに、  
かねもちの しょうにんが いました。

その しょうにんには、『ベル』という、  
うつくしい むすめが いました。

あるひ しょうにんは、おおきな しごとを するために、  
すこし とおくの まちへ でかけることに になりました。

「さあ ベルや、おみやげに なにを かってこようか」

「わたしは、なにも いりません」

「そんなこと いわないでおくれよ。」

なにが ほしいか いってごらん」

「では、えっと・・・バラのはなが いいわ。

バラのはなを いちりん かってきてください」

ベルは、やさしく ほほえみながら いいました。





さて、この しょうにんですが、こんかいの しごとで  
おおきな しっぱいを してしまい、しごとに もっていった  
おかねを、すべて うしなって しまったのです。

しょうにんは もう、かえりの ばしやを よういする  
おかねも なく、ひとり とぼとぼと、  
いえへの ながい みちのりを あるいていました。

やがて しょうにんは、ふかい もりの なかで、  
みちに まよってしまいました。

「おかしいな。この みちは、さっきも とおった はずだ・・・」

しょうにんは、つかれと くうふくに たえきれず、  
ちかくにあった きりかぶに こしをおろしました。

「はあ・・・わたしは ここで しんでしまうの かもしれないな。  
ベルよ、すまん・・・」

しかし、そのときです。

